

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市環境審議会				
事務局 (担当課)		環境政策課 電話042 - 769 - 8240(直通)				
開催日時		令和元年7月10日(水) 午前10時00分～12時00分				
開催場所		相模原市立環境情報センター 2階 学習室				
出席者	委員	18人(別紙のとおり)				
	その他	2人				
	事務局	7人(環境共生部長、環境政策課長他5人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1. 開会 2. 議題 第三次環境基本計画(素案)について 3. その他 4. 閉会				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員、 は事務局の発言)

### 1 . 開会

### 2 . 議題

第三次環境基本計画（素案）について

資料1から資料3について、事務局から説明を行った。

資料2の素案p.35について、「2)不適正処理防止対策」の「主な取組」に、「生ごみ・食品ロスの削減」とあるが間違いではないか。ここでは不法投棄に対するパトロールなどが挙げられると思うので今一度確認いただきたい。

ご指摘のとおり、ここでは、ごみの不法投棄を未然に防止するための取組として、監視カメラの設置やパトロールを実施するなどの不法投棄防止対策の推進が適切であるため、そのように修正させていただく。

資料2の素案p.23の目標指標である「気候変動に伴う影響に備えている市民の割合(%)」は、どのように把握するのか。また、あくまで個人の取組となると限られてくるが指標として適切なのか。

市総合計画の進行管理のために毎年実施する市民アンケート調査により数値の把握を行う。指標については、ご指摘を踏まえて、次期「地球温暖化対策計画」と整合を図りながら検討を行う。

西暦と和暦の年号が混在しているので、必要に応じて併記するなどの対応をしていただきたい。特に時系列の表などは何年後なのか計算しやすいように配慮してほしい。

原則、元号表記であるが、国が掲げている目標年度などに合わせ、西暦で表記しているものもあるため、必要に応じて併記するなど表記方法について、工夫を行う。

資料2の素案p.4で使用している「バックキャストिंग」など多くの市民にあまり浸透していない表現は、伝わりやすい表現に変えるか、該当頁に説明を加えるなどしたほうが良い。

ご指摘を踏まえて、全体的に見直しを行い、市民にわかりやすい表現となるよう修正を行う。

資料2の素案p.10「(5)産業」について、本文がどのグラフの説明になっているのか関連がわかりづらい。読み手に誤解を与えないよう文章の修正をしていただきたい。

ご指摘のとおり、修正を行う。

環境目標の一つとして、資源循環の推進を掲げているにも関わらず、資料2の素案p.20の表3-2の関連するSDGsのゴールにゴール12「つくる責任、つかう責任」が入っていないのは違和感がある。

SDGsのゴール12「つくる責任、つかう責任」は、食品ロス削減の取組など「資源循環の推進」と非常に関連の深いゴールと考えられるため、表に追加を行う。

計画にSDGsを入れた目的は、ともに生きる社会や繋がる社会という思想の下であると思うが、市を超えた広域の繋がりを意識しているということを加えると良い。また、その考えからやはりゴール14は加えてほしい。

海洋のプラスチック問題についても相模原市は関係がなさそうではあるが、川は海に繋がっているという見方では、関係がある。そのような視点で対応していただきたい。

SDGsのゴールと関連付けについては、委員のご指摘や上位計画である市の次期総合計画での考え方等を踏まえて、再度、検討を行う。

資料2の素案p.7の図2-7の市の位置図について、首都圏だけではなく、山梨県についても表記したほうがよいのではないかと。

教育の現場では、子供達の学習は川の流れに沿って行う。忍野八海から相模湖、津久井湖、そして相模原を下っていき、下水処理場までを意識して授業を行っている。その観点からも山梨県を加えることは必要と思う。

ご指摘のとおり、修正を行う。

資料2の素案p.3の図1-3では、「水質・土壌」などの環境要素と「大気汚染」や「有害化学物質」といった影響に関する文言が混在している。「汚染」や「有害」などは入れなくてもよいのではないかと。他にも「リユース・リサイクル」は一緒によいのか、「資源」や「資源循環」にするべきかと等再考いただきたい。また、下部に「仕組み」とあるが意味が伝わらないので修正いただきたい。

ご指摘を踏まえ、市民にとって分かりやすく、伝わりやすい表記となるよう整理する。

資料2の素案p.4の表1-1「第三次環境基本計画策定の視点」では、SDGsは、

「社会情勢の変化への対応」に入っているが、「中・長期的な視点」に入れるなどして強調しても良いのではないか。

ご指摘のとおり、SDGs は策定の視点として、強調して表記を行う。

資料2の素案 p.5 「(2) 気候変動・エネルギー」の2行目に「低排出発展戦略」とあるが、「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」のことか。正式名称を記載すること。また、表2-1については各国の削減目標が整理されているが、日本は地球温暖化対策計画で目標を確定したので、もう一度確認いただきたい。

名称や目標については、再度確認し、修正を行う。

「望ましい環境像」に「環境目標」とあるが、この表現で良いのか。具体的な達成水準を「目標」とし、注力する内容を「指標」としているので、「方針」や「方向」等の言葉の方が良いのではないか。

ご指摘を踏まえて、表現方法について、検討を行う。

本計画の施策や方向性がSDGsの17のゴールにどう紐付けされているのかが整理されているが、市として今後SDGsについての総合的な戦略を立てる予定はあるのか。その予定があるなら、その計画の内容を受けて、本計画との紐付けを整理すると良い。環境基本計画は、市環境基本条例に基づく法定計画であり条例の理念や目標を実現するための計画という位置づけである。SDGsへの貢献が主たる目的ではなく、施策の副次的効果がSDGsに貢献するという整理で良いと思われる。今回は紐付けることで留め、市として今後取り組んでいくのであれば、別の計画で整理した方が良い。

市としてSDGsの総合戦略を立てるかは未定であるが、市の次期総合計画では、各施策においてSDGsを意識して取り組むとともに、各施策がどのSDGsのゴールと深い関わりがあるかを分かりやすくするために、施策ごとに示していく予定である。部門別計画である環境基本計画においても、次期総合計画の考え方等を踏まえ、計画の施策とSDGsのゴールの関連性の整理を行っていく。

SDGsの本質や理念を追加された方が良いのではないか。また、SDGsウェディングケーキモデルがあるが、基盤となる4のゴール(ゴール6,13,14,15)は環境基本計画として入れるべきである。

本計画では、SDGsのアイコンは施策に直接該当するもののほか、関連性の強いゴールについて示している。施策とSDGsのゴールの関連性については、ご指摘や上位計画である市の次期総合計画での考え方等を踏まえて、再度検討する。

ペットボトルはリサイクル率が高いようだが、その他のプラスチックのリサイクル状況について教えてほしい。ペットボトル以外のプラスチックごみに対する取り組みが必要だと思われる。

リサイクル率は横ばいの状況となっており、分別の徹底など更なる資源化を進めていく。リサイクル率については、確認してお伝えする。

資料2の素案p.41「公園の整備と適正管理」について、資料2の素案p.17では、「環境の保全及び創造は、市民が健康で安全かつ文化的な生活を営むことのできる自然と調和の取れた豊かな環境を確保し、及び向上させ、並びに将来の世代へ継承していくこと」と述べられているが、公園内の自転車侵入や喫煙場所以外の喫煙等が見られ、適正な管理が本当にできているのか心配である。

市民の方からのご意見を踏まえながら、計画に則って、適正に管理を行っていく。

資料2の素案p.1「少子高齢化の進展」とp.29「人口減少や高齢化の促進」は使用している言葉が適切でないため、修正したほうが良い。

ご指摘を踏まえて、文言については、正しい表現に修正を行う。

地域循環共生圏と謳っているので、全体にわたってそれがわかるような表現を加えるべきである。また、「豊かさ」という言葉も様々なところで使われているが、「物質的な豊かさ」から「心の豊かさ」へ、考え方が昔と変化しているので、そのあたりを踏まえて計画に記載できると良い。

資料2の素案p.15について、都市部では「農地」が減っていることも課題として挙げてほしい。食の循環を地域ですていくことも重要な視点である。外来生物についてはアライグマ、ハクビシンを例として挙げているが、植物等の例も加えた方が良い。太陽光発電に対する施策が目立つが、地域循環共生圏の観点を踏まえると、木質バイオマスや小水力もあるため、幅広く捉えていただきたい。SDGsについても地域循環共生圏を考えるとゴール1も関係してくると思われる。関連性の高いゴールだけでなく、全てのゴールを載せても良いのではないかと。

資料2の素案p.26について、「主な取組」に「自然的特性を活かしたエネルギー資源利活用策の検討」とあるが、「検討」の段階ではなく、「促進」もしくは「実行」にするべきではないのか。

資料2の素案p.27について、「1) 低炭素ライフスタイルの推進」に外で過ごすなどの施策が書かれているが、クールチョイスなどの生活の全般に及ぶような対策を入れた方が良いのではないかと。

資料2の素案p.29について、「水素社会の実現」は、8年間という本計画の期間

内で実現可能な施策といえるか。

資料2の素案p.32について、現状と課題に、生ごみ、ごみ袋、おむつの問題等を加えたらどうか。

資料2の素案p.33、34について、主な取組に「生ごみ・食品ロスの削減」とあり、具体的な削減対策が書かれているが、発生抑制に繋がる取組も加えたらどうか。

資料2の素案p.37について、里山地域における農地利用について記述があるが、里山地域だけではなく市全体で考えた方が良い。また、有機農業の促進や推進も重要な取組となるため、加えていただきたい。

頂いたご意見は整理し、分野ごとの個別計画と整合を図りながら計画への反映を検討する。

資料2の素案p.41について、「4) 農林業の持続的振興」2段落目に「木材の利活用の促進や農林業者への支援」とあるが、具体的にどのような支援なのかを決める必要がある。また、津久井産材については利用拡大に向け、検討を進めていただきたい。

資料2の素案p.48について、「主な取組」に「高度処理型浄化槽の設置の推進」とあるが、森林環境税があるうちに対応を進めていただきたい。

資料2の素案p.54について、ESDについては、「1) 学校、地域、社会等幅広い場における環境教育」にも関わってくるのではないかと。

ご指摘を踏まえて、修正を行う。

資料2の素案p.54について、ISO14001はマネジメントシステムなので、市民に対して、この規格を用いて行うのは難しいのではないかと。

事業者を対象としたものであり、ISO14001を行う中で、従業員に対して環境意識の向上などを目的とした環境教育がされるというものであるが、ご指摘のとおり、表現がわかりにくいものとなっているため、修正を行う。

資料2の素案p.62について、事業者の役割の記載があるが、市と事業者の関わりは現在、どのような取組をされているのか。

「相模原の環境をよくする会」や「さがみはら地球温暖化対策協議会」等の環境に関する団体において、事業者と協力して、環境保全活動に取り組んでいる。

資料2の素案p.47について、施策の柱に生活環境として、良好な景観づくりなど環境美化に関する取組を加えたらどうか。生活環境では、放置自転車や空き家問

題もあるが、環境基本計画でどこまで対象とすべきか検討いただきたい。

資料2の素案p.52について、「環境保全の人づくり・仕組づくり」の施策体系をみると、取組方針の内容が重複しているところが見受けられるため、確認いただきたい。結果として「環境影響評価の推進・促進」のみが独立する形となるが、その場合は施策として位置づけても良いと思われる。

ご指摘いただいた内容については、事務局で検討させていただく。

資料2の素案p.48について、「津久井クリーンセンターし尿処理施設の建替整備」については既に整備が終了しているのではないか。

ご指摘のとおりのため、修正させていただく。

資料2の素案p.48について、「3) 土壌・地下水汚染の防止」8行目「中山間地域における土砂等の埋立行為」について建設産業廃棄物を指すのであればここに該当しないのではないか。

ここで示している土砂等については、産業廃棄物は含まない。

資料2の素案p.60について、「主な取組」について、「多様な主体を巻き込みながら」と言いながら、全体としては行政が行う取組が主となっている印象である。市の第3次一般廃棄物処理基本計画では、市民、事業、行政の取組を分けているが、それを行うと内容が複雑化して見づらくなるのであれば、もう少しわかりやすくしていただきたい。

表現については、読み手を意識して、修正を行う。

資料2の素案p.60について、「2) グリーン購入やエシカル消費、環境配慮の取組の推進」の「主な取組」に「ESG投資の普及促進」とあるが、これは行政が行うのか。環境省主体で「企業と投資家のためのESG対話プラットフォーム」が設置されているが、中小企業に一方的にPRしてもなかなか上手くいかない懸念している。普及促進をするためには、企業へ一方的に話すのではなく、どのような仕組みで、こうすれば上手くいくといったところまで提示できると良い。

資料2の素案p.50について、環境目標5の「環境ライフスタイルの促進」とあるが、「環境にやさしいライフスタイルの促進」等に変えた方がわかりやすいのではないか。

資料2の素案p.51について、2段落目3行目「一方、」とあるが、表現が直接的すぎるため、文言を再考いただきたい。3段落目2行目「また、これまで主流であった」とあるが、主流とはどういう意味かわからないのでわかりやすい文言に修正

していただきたい。

資料2の素案p.55について、「3)人材育成及び教材開発・提供事業の登録及び情報提供」の「主な取組」に「次代を担う子どもたち・若者たちの育成」とあるが、「環境人材の育成」等の文言の方がわかりやすい。

ご指摘を踏まえて、市民にわかりやすい表記について、検討を行う。

資料2の素案p.45について、大気環境基準は10項目ほどある。現時点ですでに達成されている項目やNOxのように達成することが難しい項目があるので、意識して設定いただきたい。

資料2の素案p.58について、目標達成の目安となる項目について、定性目標としているが、定量目標が設定できるのであれば検討いただきたい。

ご指摘を踏まえて、上位計画である市の次期総合計画での指標設定などと整合を図りながら、再度検討を行う。

以 上



相模原市環境審議会委員名簿（敬称略）第1回(令和元年7月10日開催)

選出区分	委員名	所属・役職	備考	出欠席
学識 経験者	一色 正男	神奈川工科大学 創造工学部 教授		出席
	遠藤 治	麻布大学 生命・環境科学部 教授		出席
	大河内 由美子	麻布大学 生命・環境科学部 准教授 (相模原市廃棄物減量等推進審議会委員)		出席
	岡部 とし子	相模女子大学 栄養科学部 教授		欠席
	亀山 章	東京農工大学 名誉教授	会長	出席
	田中 充	法政大学 社会学部 教授 (相模原市地球温暖化対策推進会議会長)		出席
	南部 和香	青山学院大学 社会情報学部 准教授		出席
	松本 安生	神奈川大学 人間科学部 教授	副会長	欠席
	吉永 龍起	北里大学 海洋生命科学部 准教授 (相模原市水とみどりの審議会委員)		出席
市内の 公共的 団体等の 代表者	岡崎 広志	相模原市立小中学校校長会 委員		出席
	北村 陽子	(特非)さがみはら環境活動ネットワーク		出席
	佐藤 治男	津久井郡森林組合 代表理事組合長		出席
	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 副会長		出席
	根本 敏子	相模原商工会議所 常議員		出席
	古屋 伸夫	(特非)かながわ環境カウンセラー協議会 相模原支部長		出席
	山口 誠志	相模原の環境をよくする会 会長		出席
関係行政機関の 職員	鈴木 一成	環境省関東地方環境事務所 環境対策課長		出席
公 募	大久保 和美	中央区在住		出席
	梶山 純	中央区在住		出席
	斎藤 奈美	中央区在住		出席